



お口の中をいつまでも “美しく清潔に” 保つために



種類	セラミック “陶器(瀬戸物)の被せ物”	プラスチック	銀歯 “様々な金属が混ざった合金の被せ物”
写真			
説明	<p>清潔</p> <p>セラミックは表面が非常に滑らかたため細菌(プラーカー)が付きにくく清潔に保てるためむし歯や歯周病になりにくい。</p> <p>美しく変色・着色がほぼない</p> <p>セラミックは光沢・透明感があり天然の歯のように自然な色合いで、また変色・着色(茶渋、ヤニ等)しにくいため、美しい状態を長く保てる</p> <p>割れる可能性</p> <p>歯ぎしりや食いしばり等により過剰な力がかかる場合、欠けてしまう恐れがある。予防策として、高耐久セラミック(ジルコニア)を選択し、歯ぎしり用マウスピースを使用する。</p>	<p>メリット</p> <p>保険適用の部位であれば安価で白い歯を入れることができます。</p> <p>デメリット</p> <p>強度が弱く、欠けたり外れたりする事があります。また、保険適用の型取りの材料は精度が低いため、歯型が正確に再現できず(実際の歯の寸法と、歯型の寸法が一致せず)、出来上がった被せものや詰めものと歯の境目に段差や隙間ができる、そこに汚れが溜まってむし歯が再発しやすくなります。</p> <p>セラミックに比べると、レジンが混ざっているため、色調や透明感が劣ります。</p> <p>また、長期間経過すると変色します。</p> <p>プラスチックの10年後 4~5年目で変色し少しづつ減ってきます。 10年経つ頃にはこのように金属が見えてきます。</p>	<p>むし歯の再発</p> <p>銀歯は適合が悪いため、金属と歯の間に隙間や段差ができるやすい。そこに細菌が入り込んでむし歯が再発しやすくなる。</p> <p>腐食性</p> <p>銀歯と歯の間は隙間や段差ができるやすく、そこに歯垢が溜まりむし歯になることがあります。銀歯の中のむし歯は、レントゲンを撮影しないと見つかりづらく、また気づかない間にむし歯が大きくなると神経を取らないといけなくなる場合があります。</p> <p>金属アレルギー</p> <p>銀歯は様々な金属が混ざった合金で出来ており、その金属イオンが溶け出す事で、口腔内にとどまらず、全身にアレルギー症状を引き起こす場合がある。金属アレルギーにより体の不調が起こることがあるが、診断が難いため、金属は避けるのが無難である。</p>

